

保健所及び市町村による乳幼児歯科保健事業の 体系化に関する研究

橋本 勢 津^{*}
加藤 仲 二^{**}

要約：岩手県における保健所および市町村の実施する乳幼児を対象とした歯科保健事業の実施状況と今後の課題を検討することを目的として、質問紙を用いた調査を行った。1歳6ヶ月児歯科健診、3歳児歯科健診に加え、26.7%の保健所及び77.4%の市町村が歯科健診、歯科保健指導等を内容とする事業を実施していた。

見出し語：保健所、市町村、乳幼児、歯科保健事業

研究方法：昭和63年1月に、岩手県内全保健所および全市町村（62）に対し、質問紙を郵送し回答を求めた（記名方式、回収率100%）。

結果：3歳児歯科健診以外の乳幼児を対象とする歯科保健事業を実施する保健所は全保健所の26.7%（4保健所）であり、対象となる市町村は全市町村の16.1%（10市町村）であった。また1歳6ヶ月児歯科健診以外の乳幼児を対象とする歯科保健事業を実施する市町村は、全市町村の77.4%（48市町村）であった。

保健所が実施する事業の内容は、ハイリスク・グループ、障害児、あるいは希望者を対象とする健診および歯科保健指導等が主なものであった。一方、市町村が実施する事業は、全員を対象とした健診、歯科保健指導等が、ほとんどであった。これを対象年齢別にみると、1歳6ヶ月～3歳児を対象に含む事業では71.0%（44市町村）、1歳6ヶ月未満を対象に含む事業では22.6%（14市町村）、3歳以上を対象に含む事業では12.9%（8市町村）の市町村が実施していた。

乳児健診の中で何らかの歯科保健指導を実施している市町村は22.9%（51市町村）であった。

歯科保健指導を担当する職種についてみると1歳6ヶ月児歯科健診、3歳児歯科健診いずれの場合も「保健婦」が最も多く、次いで「歯科衛生士」、「歯科医師」、「栄養士」の順であった。

歯科衛生士が歯科保健指導を担当している市町村の割合は、3歳児歯科健診で43.5%、1歳6ヶ月児歯科健診で59.7%、乳児健診で21.6%であった。

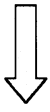
考察：岩手県における乳幼児を対象とした歯科保健事業は、1歳6ヶ月児と3歳児の中間にあたる年齢群を対象に、市町村が主体となり進められている。歯科疾患、特にう歯の発生要因を考慮すると、より低年齢からの対策が必要であるが、保健所がどのように関わるか、さらに医師、歯科医師、保健婦、栄養士、歯科衛生士等の保健医療従事者がどのような役割を担うべきかが、今後の重要な検討課題であると考察された。

文献：

1) 田沢光正他：岩手県下62市町村の歯科保健事業の実施状況とその問題点。第32回日本小児保健学会講演集。242, 1985。

^{*} 岩手県宮古保健所
(Miyako Health Center, Iwate Pref.)

^{**} 岩手県環境保健部保健予防課
(Health and Prevention Devition, Iwate Pref.)



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:岩手県における保健所および市町村の実施する乳幼児を対象とした歯科保健事業の実施状況と今後の課題を検討することを目的として、質問紙を用いた調査を行った。1歳6ヶ月児歯科健診、3歳児歯科検診に加え、26.7%の保健所及び77.4%の市町村が歯科健診、歯科保健指導等を内容とする事業を実施していた。